ご挨拶

北海道倶楽部は 1927 年（昭和 2 年）に新渡戸稲造博士らによって設立されて以来、北海道に縁を持つ首都圏在住者が結束し、北海道の開発と発展を支援する会として歩んでまいりました。来年は 100 周年を迎えます。

これまでの活動を通じて、北海道への理解と関心を高めるとともに、人々の親睦を深め、次世代を担う若い人々へ活動を継承していくことが大切です。そして、日本が成長していくうえで、北海道の価値は他では代替できないものとなりつつあります。その実現を力強く進めるためにも、倶楽部の支援は重要です。北海道は、「支えられる地域」から、「日本を支える地域」へと変わろうとしているのです。

私が皆様と共に進めていきたい倶楽部の活動は、主に以下の 6 項目です。

① 北海道の現状を日本国内に紹介する広報活動。広報誌「北海道 NOW」の発行やウェブサイト等による、北海道の歴史、現状やポテンシャルの紹介（先住民族のことも含む）。倶楽部を知ってもらう努力、ならびに各地域との絆を強める方策についての、さらなる深掘り。

② 北海道庁主催の地域活性化事業の支援。ふるさと納税への協力、北海道応援団会議との協業、北海道新幹線札幌延伸や北海道バレー構想実現への支援等。

③ 国主催の北方領土返還活動への協力。対策協議会の活動、都内での行進、シンボルバッジ等への協力。

④ 首都圏企業・大学と各自治体・事業の連携推進支援。北海道大学等との連携を含む、農林水産業・観光業等の産業育成、都市構造研究、健康寿命伸長に資する医療改革等の推進支援。

⑤ 首都圏で北海道に縁のある若い人々、ならびに道内で北海道改革に志を持つ人々に対する、北海道の歴史とポテンシャルに関する教育・啓発活動・講演会等の実施。

⑥ 世界が一体となって進めている脱炭素・GX の取り組みに関し、④の活動とも連動しながら、北海道が担う役割の明確化と推進。

倶楽部の存在意義を高め、次の未来へ

以上が活動内容です。特に今後のテーマとして重要である⑤に注力し、北海道倶楽部の存在意義を高めたいと考えています。皆さん、相互協力しながら、倶楽部の活動を次の 100 年へと紡いで参りましょう。



公益社団法人北海道倶楽部
会　長
小林　敬一

1959年生まれ。1985年早稲田大学大学院理工学研究科修了後、古河電気工業入社。研究所、工場勤務ののち、原価低減推進部長、巻線事業部長、銅条・高機能材事業部門長、自動車・エレクトロニクス材料事業部門管掌、グローバルマーケティングセールス部門長などを経て2017年4月に代表取締役社長就任。2023年4月取締役会長に就任。北海道室蘭市出身。

一言メッセージ

2019年（平成31年）から会長を務められた川村氏より、その役目を引き継ぐこととなりました。新渡戸稲造博士らが創設された北海道倶楽部は、まもなく100周年を迎えます。この歴史を守るだけでなく、次の100年へどう繋ぐか。倶楽部の歴史の重みを感じ、そして紡ぎつつ、改革の歩みをさらに加速することが必要です。

北海道は今、食料、エネルギー、GX、観光など、日本の未来を支える大きな可能性を持つ地域へと変わりつつあります。だからこそ北海道倶楽部もまた、「親睦の場」に留まるのではなく、北海道と日本の未来に貢献する存在へと進化していかなければなりません。皆さまと共に、歴史を紡ぎ、未来を創っていきたいと思います。

長い間倶楽部を支えてきた会員の皆さまに、新会員の皆さまも加わっていただき、より一層発展させ、倶楽部の役割を深め、公益事業を推進して参りましょう。イベント等で皆さまにお会いできるのを楽しみにしております。